

ひびきあい

学校だより 11月号

令和3年 10月29日

横浜市立新田小学校

読書の秋

校長 村岡 靖

「これ、読んでごらん。」

確か私が小学4、5年生の時に、当時大学生だった大好きな叔父から、一冊の本を渡されました。その叔父は、私にとって何でもできる憧れのヒーローだったので、一生懸命その本（確か「次郎物語」という本だったと思います）を読んだ記憶があります。

その後も叔父から、井上靖や夏目漱石の本を紹介してもらいました。それから、読書が私の趣味になりました。決して勉強のために読んでいたのではなく、本の魅力につかまってしまったのです。試験期間中も本ばかり読んでいたので、よく怒られていました。

読書にはいくつかの効用があるとされています。私自身も本を読んでいて、良かったなと思う時がありました。

- ① 語彙力、読解力が養われる
- ② 想像力が豊かになる
- ③ 教養や知識が身につく、世界が広がる
- ④ ストレスが軽減され、リラックスできる

自分を振り返ると、読む本に偏りがあって①とか③は少し怪しいのですが、リラックスできるのは本当だと思います。辛いことがあった日でも、大好きな本を読むと、別の世界に連れて行ってくれて、ぐっすり眠ることができます。

新田小学校の子どもたちにも、たくさん本を読んでもらいたいと思っています。私に読書の楽しさを教えてくれた叔父は新田小学校にはいませんが、学校には素敵な本を紹介してくれる学校司書がいます。本校の学校司書の小股純子先生は、以前は本の雑誌の編集者で、正に本のプロフェッショナルです。子どもの相談にとっても丁寧に応じてくれます。皆さんもこの秋にご家庭で、ぜひ、お子さんと本の話をしてみてはいかがでしょうか。

学校司書 小股純子

「新田小学校の図書室には全部で何冊の本があると思いますか？」4月の図書室オリエンテーションで子どもに最初に聞く質問です。今年の答えは「8500冊」。そう答えると子どもたちは「えーっ！そんなにあるの？」「すごい！」と驚きます。私はその驚いた笑顔を見るのがとても好きです。この子どもたちが8500冊の本とどんな出会いをするのか、想像するだけでワクワクするからです。

新田小では児童への本の貸し出しは一週間で1人2冊と決まっています。休み時間や図書の授業の時に貸し出します。本が好きな子はすぐに2冊選べますが、読書が苦手な子は本を選ぶことがなかなかできません。そんな時、その子の「好き」を聞き出して、本を探すお手伝いをします。最終的に決めるのは子どもです。たくさんの中から選んだ2冊を持って帰ってきた時には、どうぞ、おうちの方もその本を読んでみてください。そこから始まる本の話が、ご家庭での読書の秋につながればと思います。